

侵入害虫クビアカツヤカミキリからサクラやモモを守る

食と農の研究部 防除グループ

■背景と目的

大阪府内ではバラ科樹木(サクラ、モモ、ウメ等)を加害し枯死させる**侵入害虫クビアカツヤカミキリ**(以下、クビアカ)の被害が拡大中です。(右図: 2020年10月時点14市町村で被害確認)

クビアカは侵入して間もなく、現在のところ国内で有望な天敵が見当たらないため何も対策をしないと被害拡大は止まりません。

更なる被害拡大を防ぐためには効果的な防除技術を開発し広く情報提供することが必要です。



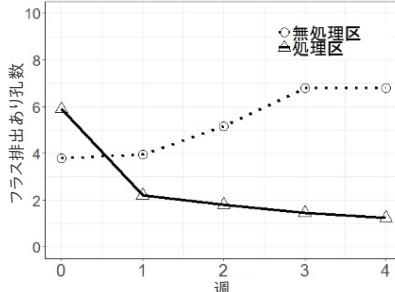
■事業の内容

クビアカ幼虫及び成虫に有効な防除技術の開発とそれらを組み合わせた防除体系の確立に向け試験を進行中

①幼虫防除: 薬剤樹幹注入(サクラのみ適用可)

被害木の樹体の地際部に穴を開け、薬液を注入

ウッドスター処理(4月29日)後のフラス排出あり孔数の推移(平均値)

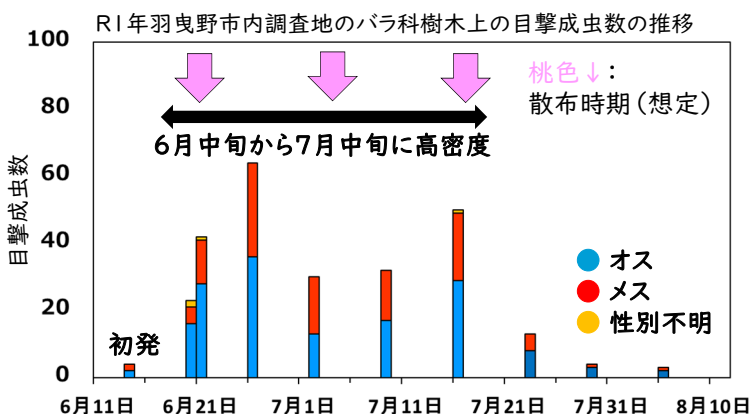


幼虫は樹体内部に浸透した薬剤を摂食活動とおして摂取し死亡

樹幹注入処理後に幼虫によるフラスの排出が減少

②成虫防除: 発生消長*調査と薬剤散布時期の検討

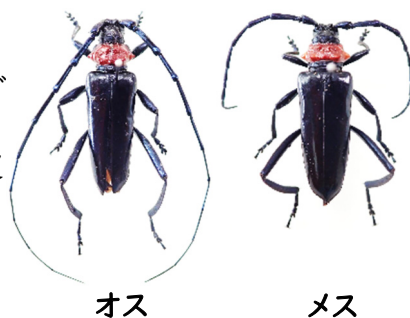
調査ルート上樹木での成虫目撃数から発生消長*を推測
*個体数が時期によって多くなったり、少なくなったり移り変わる様子



成虫が多い6月中旬から7月中旬を中心に薬剤散布

クビアカツヤカミキリ(学名: *Aromia bungii*)

- ・体長: 2~4cm(成虫)
- ・分布: ロシア、中国、朝鮮半島、ベトナムなど
- ・特定外来生物: 2018年1月15日指定
- ・食性:
幼虫: 生きている樹木
(穿孔性・材食性)
成虫: 樹液、腐敗果実



③成虫拡散防止・産卵阻止: 農業用ネットの被覆



成虫の体サイズや産卵管サイズを測定し拡散防止や産卵阻止に必要なネットの目合いや巻き方を検討中

■今後の方向性

クビアカの生態を考慮し、各防除技術の最適な施用方法(時期・回数)を検討し、防除体系を提案します。

活動時期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月~3月
成虫			発生 → 産卵					
成虫防除体系案			薬剤散布					
			ネット被覆					
活動時期(2年1化想定)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月~3月
幼虫 当年			孵化 ⇒ 摂食活動					幼虫越冬
幼虫 2年目			摂食活動	摂食活動 ⇒ 蛹室+脱出予定孔形成				前蛹越冬
幼虫 3年目	前蛹	蛹化 ⇒ 羽化・脱出						
幼虫防除体系案	薬剤樹幹注入(サクラ被害木の場合)							

樹幹注入及び散布で各薬剤の残効期間を試験中